

楷

第三十九号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.39
2004
OCTOBER

<写真>
ままかり
海魚ナリ大サ四寸許
鱗二光アリ可食

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」より（岡山大学附属図書館池田家文庫所蔵）

目次

大学を映す鏡 = 図書館（附属図書館副館長）	p. 2
附属図書館の事務組織（学術情報部情報管理課）	p. 4
アメリカで図書館を見た。翻って本学図書館について考えた。 （参考調査係 竹下啓行）	p. 6
初心者の業務の見方（図書情報係 久磨由美子）	p. 8
マスカット	p. 9
オリエンテーション、池田家文庫等貴重資料展、中央館書庫の閉鎖ほか 会議・研修・編集委員会から	p.12

大学を映す鏡 = 図書館

齋藤清機

平成16年4月より副館長という立場で岡山大学附属図書館の管理運営に関わるようになった。“文献”無しには成立しない教育研究分野に身を置いているので、年を考えれば何らかの形で図書館に貢献することも大切であるとは思ったが、学科長をやりながらそのような余裕があるかどうか不安であった。しかし、大崎副学長（図書館長）の依頼と説得に抗しきれず、そのお役目をお引き受けすることになった。学術情報基盤の確立の遅れを取り戻すことが、21世紀に至って、大学本来の使命の遂行上不可欠の要素になっている現状を認識し、副館長の職責も大学人としてなすべき重点の一つと思えたからでもある。

小生が京都大学の学生であった頃、大学附属図書館は、現在のような姿ではなかった。非常に馴染みの薄い存在で学生・院生の9年の間に数回足を運んだ記憶があるが、“文献調査”は、蔵書の規模も空間も共に小さい学科の図書室、あるいは化学系の共同利用となっていた「工業化学科図書室」をもっぱら利用した。必要な論文の複写が簡単な時代ではなかったため、小さな図書室で雑誌を読むかあるいは借り出して研究室で読んで、必要なことは全て自筆メモした。目指す論文を探す作業も一筋縄ではなかった。数キログラムもある“Chemical Abstracts”の“Index”から調査を始め、目的の論文掲載雑誌を探り当てるのに、かなり時間がかかった。そのような時代に岡山大学工学部合成化学科に教員として採用されたが、岡山大学においても、京都大学と同様に、学科の図書室（工業化学科・合成化学科共同図書室）が情報収集の要となる場所であった。あれから三十余年経過した現在、必要な文献のコピーを自分のオフィスの机上のプリンターからPDFファイルとして入手する時代が到来した。“Chemical Abstracts”の“Index”も“SciFinder Scholar”というデータ・ベース検索ソフトに変わった。

1979年8月から1年間博士研究員として米国コーネル大学化学科に在籍したが、その時よく利用した“Physical Science Library”は、当時の岡山大学工学部工業化学科・合成化学科共同図書室と比較して質と量共に雲泥の差があった。日本では見られなかった学術雑誌があったというだけでなく、あらゆる情報を揃えるという基本姿勢が貫かれており、週日は真夜中12時まで開館、学習するスペースの十分な確保等、情報収集の場所であり学習空間であるという毅然とした雰囲気がとても心地よかった。現在のコーネル大学図書館の力量をインターネットで分かる範囲で推し量ってみると、25年前の「差」は縮まっていないどころか、さらに大きくなっている。コーネル大学図書館は、20の個別図書館の集合体として存在し、“Physical Science Library”はその一つである。そこでは、物理・生物・化学関係（数学関係の図書は別にある）の291タイトルが電子ジャーナルとして利用できる。大学全体では27,000タイトル（+ ）が提供され、わが岡山大学では利用できない学会系の電子ジャーナルが完璧に整備されている。一方、データ・ベースは、40のカテゴリーに分類されていてその総タイトル数を正確に把握できないが、40のカテゴリーの内の一つ、例えば“Chemistry”は、40種類のデータ・ベースを利用可能となっている。別の例として、スタンフォード大学の経営学大学院（Graduate School of Business）では27タイトルのデータ・ベースにアクセス可能となっている。今、不満足ながら岡山大学で電子ジャーナルの供用が始まり、大手出版社系の2,998タイトルと学会系の8タイトルに加えて数少ないデータ・ベースの利用が可能となっているが、コーネル

大学の10分の1の規模に過ぎない。情報の格差が驚くほど大きくなっている。

3年前、横浜でヘテロ環化学国際会議が開催された。ノートパソコンを横浜のホテルに持ち込んでe-mailのチェックをしていたところ、イギリスの著名な学者A氏から、アメリカ化学会誌に発表される予定の小生の論文に関する抗議のメールが届いていた。冊子体として出版される1.5ヶ月前のことである。印刷された論文を著者自身がまだ見ていない時点で、A氏はアメリカ化学会誌の電子版を通してその内容をいち早く読み、関連する自分の論文の引用がないことに対する抗議をしたのであった。問題のA氏の論文は、RSCのある雑誌に掲載されており、その雑誌の調査が洩れていたために発生した事態であった。その調査は、学生あるいは教員が中央図書館に出向きその雑誌に限らず目を通す形で行われる予定であった。しかし、何らかの理由でそれが行われなかった。インターネットによるデータ・ベース検索が可能になっていたら、防ぐことが出来た問題である。

コーネル大学にしる、スタンフォード大学にしる、大学図書館ネットワークの姿を全体的に眺めると、学術情報基盤を完備するのは当然であるかのように、そこには大学という場所が知識・情報の宝庫であり、多種多様な学術に関する情報の漏れがないように配慮する基本的な姿勢が明確に打ち出されている。更にインターネットで分かる範囲で管理運営組織を見ると、わが国ではよく見られる学部学科の代表で構成される形態は全く見られず、例えば、コーネル大学の場合、“Library Management Team”という名の組織があるのみで、その構成は7名の大学図書館司書（収集担当、技術サービス担当、IT担当、探索担当、生命科学担当、工学・数学・自然科学担当、司書補助担当）と3名の主事（財務担当主事、医学図書館主事、及び法律図書館主事）となっている。これらの有能な7人衆がすばらしい学術情報基盤の構築・維持・発展を支えているようである。そして、理想に近いこのような学術情報基盤を支える資金が大学基盤経費から拠出されている。大学執行部が収集した寄付金や教員が獲得した外部資金のオーバーヘッド（20 - 50%）が大きな支えとなっている。我が岡山大学のように、決して受益者負担ではない。

今、岡山大学で学術情報基盤としての電子ジャーナルとデータ・ベースの整備及びそれを支える資金源について議論が始まり、基本的な方針が大崎副学長（館長）から提案されている。電子ジャーナルを5,016タイトルに、データ・ベースを19タイトルにグレードアップし、それを全学的に支えようとする提案（叩き台）である。やっと、学術情報が基盤的なものであり、研究・教育のインフラストラクチャーであるとの認識が示されたものとして大歓迎である。旧七帝系の大学が4億円～5億円を電子ジャーナルとデータ・ベースの拡充に拠出しようとしている。法人化を契機に、学部・学科の利益代表でない執行部が発足し、総合大学としての大学の在りかたを視点に据えて意思決定を行うための組織的基盤が確立された。この歴史的変革を生かすも殺すも意思決定権者の価値観と使命感次第である。意思決定権者は、知識に裏づけされた価値観と思考、その結果としての“Decision Making”を強く求められる。大学改革の質とスピードが今厳しく求められている。図書館は、学術情報基盤の要として、その姿がその大学の教育・研究の質を映す鏡である。この機を活かし、致命的な基盤整備の遅れのないように関係各位のご奮闘を願って止まない。

（さいとう・せいき 附属図書館副館長）

附属図書館の事務組織

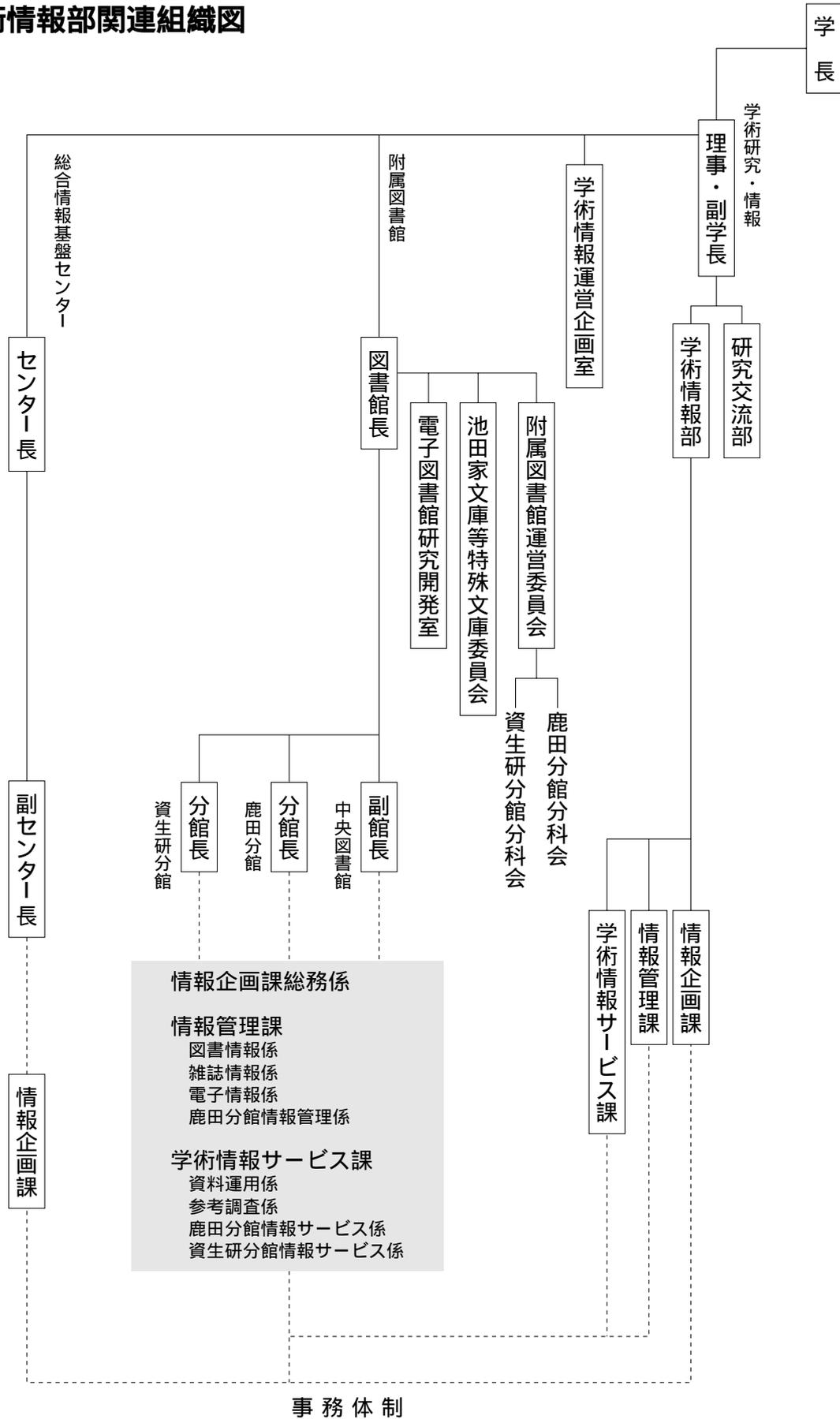
学術情報部情報管理課

法人化を契機として大学の機構改革が行われた中で、附属図書館についても事務組織体制が大きく変わりました。図書館の事務・業務は学術情報部が部分的に担当することになりました。次ページの関連組織図をご覧ください。学術研究・情報担当理事が附属図書館と総合情報基盤センターの長を兼ね、学術情報部はこの理事の下にそれぞれの業務を遂行します。理事の学術情報に係る意思決定機関として学術情報運営企画室が新設され、附属図書館運営委員会は理事（図書館長）の諮問機関として位置づけられることになりました。分館においても、それぞれ置かれていた分館運営委員会は附属図書館運営委員会の下の分科会となり、分館事務部は学術情報部の課の中に組み込まれました。附属図書館は、理事の下全館あげて、情報基盤の整備・充実、学習環境の向上など、図書館運営とサービスを指向する体制になりました。

新生図書館の事務・業務は、下記の係が分担して行います。

館	係名	旧係名	主な業務	連絡先(内線)
中央館	総務係	総務係	学術情報部全体の事務	津島 7304
	図書情報係	資料受入係、 目録情報係	図書資料の購入、受入、登録	津島 7308
	雑誌情報係	雑誌係	雑誌資料の購入、受入、登録	津島 7320
	電子情報係	電子情報係	図書館システム、 電子情報全般	津島 7315
	資料運用係	資料運用係	資料の貸出、返却、 閲覧室・書庫の管理	津島 7318
	参考調査係	参考調査係、 相互利用係	調査、文献複写、 池田家文庫関連	津島 7322
鹿田分館	情報管理係	情報管理係、 目録情報係	図書・雑誌の購入、受入、 登録	鹿田 7050
	情報サービス係	情報サービス係、 参考調査係	資料の貸出、返却、調査、 文献複写	鹿田 7053
資源生物科学 研究所分館	情報サービス係	情報管理係、 情報サービス係	図書館業務全般	資生研 1204

学術情報部関連組織図



アメリカで図書館を見た。翻って本学図書館について考えた。

竹下啓行

はじめに

本年3月6日から13日にかけて、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校（以下UIUC）、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校（以下Stony Brook）、モロイ・カレッジ（以下Molloy）の各図書館を訪問する機会をいただきました。

雰囲気ある壮麗な建物、多くの学生が集う図書館入口付近のカフェ、深夜におよぶ開館時間、繁忙期でも不足することのない閲覧席やパソコン、……。各館の施設やサービスを詳述するだけで紙幅を超過してしまいますので、本稿では彼我の相違点をまとめて比較し、それらを通じて本学図書館のあり方について私見を述べたいとおもいます。

アメリカの図書館と本学図書館～何がどう違うのか？

1. 資金～規模、配分方法、財源

UIUC、Stony Brookの大規模大学はもちろん、本学より小規模なMolloyと比べても学生一人あたりの予算規模では劣ります（文末の「各館比較表」D欄を参照）。いずれの図書館も大学から直接に資料費・人件費を含めた予算を得ており、資料費の大半を部局からの資金に依存する本学図書館とは、配分方法にも顕著な違いがみられます。また、いずれの大学も民間からの寄付を積極的に集めていますが、本学は主に自己収入と国費によっています。

2. 職制～専門職と非専門職

いずれの図書館でもLibrarianという専門職が雇用されており、非専門職のStaffとともに運営にあたっていました。一口にLibrarianといっても、様々な専門に分化しており、他の業務や部署に異動になることはないようです。一方、本学図書館の職員は図書館学の専門試験を経て採用されますが、特定の業務や主題の専門性を問われることはありませんし、一般に2～3年で異動となります。これらの点から、私たちはアメリカで言うところのStaffに相当する非専門職であるといえます。

3. 高等教育制度～行政の影響

アメリカの州立大学は財政面で州の影響を受けるものの、法的には自律性を保持しており、財産の取得・処分や人事等は各大学の裁量で行われるようです。日本では国が高等教育機関の設置認可を行うと同時に、国費が大きな財源となっているため、私立大学といえども国の意向に沿って運営せざるを得ません。国立大学にいたっては法人化された現在でも中期目標や人事を通じて国の管理下にあるといえます。

翻って考えた～本学図書館運営に関する私的提案

1. 予算配分方法の見直しと民間資金の導入で資金減を克服しよう

部局に依存せず、全学的な視野に立った効率的な運営を行うため、資料費を全学共通経費化する必要があります。また、国への依存を改め、財源の多様化を図るため、早急に民間資金の獲得に取り組むべきではないでしょうか。高額所得者が少ない、大学への寄付に対して税控除が受けにくい

などの理由から、日本でアメリカと同程度の寄付を集めることは困難とおもわれますが、まずは本学図書館が民間資金を求めていることを世に知らしめることが重要であり、そのための体制づくりを急ぐ必要があるのではないのでしょうか。

2. 非現実的な専門職への憧れを捨てて相補的 Generalist 集団を目指そう

人員減による業務の掛け持ちが増加し、従来のような縦割りの官僚型組織では対応できなくなっています。一方、アメリカ型の専門職 (Specialist) 志向は一見理想的に映りますが、人員減の現下では場違いとすらいえます。何でも屋の Generalist 集団として、個々の職員が相補的に機能する組織が強く求められているのではないのでしょうか。

3. 国策偏重の旧弊を改めて顧客満足度重視へ発想を転換しよう

国策に沿った運営によって日本の大学図書館が一定のレベルアップを果たしてきたのは事実です。反面、利用者の意向にかなうサービスよりも、国策にかなうサービスが重視されてきた感も否定できません。図書館 = サービス業、利用者 = 顧客である点を再認識し、顧客満足度重視の運営へと発想を転換する必要があるのではないのでしょうか。

むすび

本学が協定先として厳選した大学だけあって、訪問先はいずれも立派な施設や設備を持っています。しかし、日本では不動産が高価なこともあり、本学図書館の限られた経営資源で訪問先の図書館をそのまま模倣することは困難とおもわれます。

これまで私たちは手持ちの経営資源を必ずしも有効に活用してきませんでした。顧客と向き合う努力も不足していました。これらはいずれも国立大学法人化の一因として指摘されてきたところです。これらの点を改善すれば、訪問先ほど立派な施設や設備を持たなくとも、多くのお客様に喜んでいただける図書館にできるとおもうのですが。

謝 辞

貴重な機会を与我えてくださった訪問先ならびに本学関係者の皆様に深謝いたします。

(たけした・ひろゆき 参考調査係)

各館比較表

大 学 名	UIUC	Stony Brook	Molloy	岡山大学
A . 学生数	38,291	22,344	2,500	14,531
B . 所蔵図書数	9,000,000	2,100,000	120,000	1,869,702
C . 年間予算額または執行額 (上段はUSドル、下段は日本円換算)	30,000,000 (3,200,700,000)	11,986,799 (1,278,871,585)	861,784 (91,943,735)	(3,361,346) 358,622,000
D . C(日本円換算)/A	83,589	57,236	36,777	24,680

訪問先大学の数値は平成16年3月31日現在の各大学ホームページによる

UIUC <http://www.uiuc.edu/> StonyBrook <http://www.sunysb.edu/> Molloy <http://www.molloy.edu/>

本学の数値は「岡山大学附属図書館概要2003」による

ドル円換算レート(1ドル=106.69円)は平成16年3月31日現在の外為相場による

初心者の業務の見方

久 磨 由美子

大学を卒業し、岡山大学附属図書館に勤務し始めて数ヶ月が経ちました。「『楳』に1ページ何か書くように」といわれたのは1ヶ月前。1ヶ月間何を書こうか悩みましたが、先輩方になって仕事の内容や感想と、抱負などについて書かせていただこうと思います。

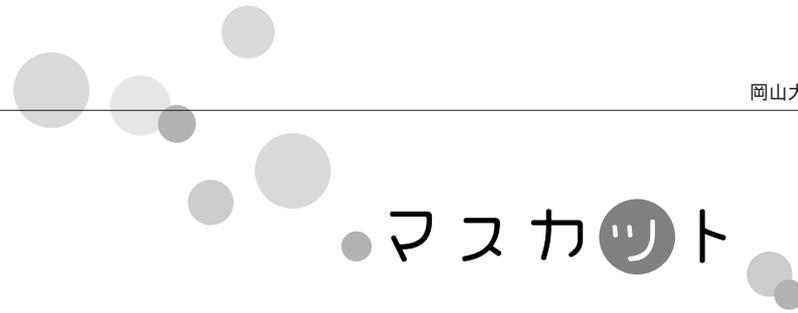
最初に書いたとおり、私は大学を出たばかりの「社会人」初心者です。アルバイト歴もほぼ無に近い私としては、「仕事」との付き合い方にまだ折り合いがつかない感じです。そんな私を受け入れてくださっているのが「図書情報係」という部署です。4月1日にいただいた辞令には、「図書」と「情報」の文字がたくさん並んでおり、どんな所なのだろうと思うと同時に、ドキドキよりピクピクの方が勝っていたのが正直なところでした。しかし、実際は優しく楽しい方ばかりのおもしろい職場でした。

さて、ではどのような仕事をしているのかというと、私の場合は主に図書の発注受入と支払です。こんな初心者にお金が絡むことをさせてもいいんですか……？ と、正直思いましたが、誰かがやる仕事が私に回ってきただけのことだと、今は割り切っています。とはいっても、やはりお金の絡むことはこわいので、いまだにドキドキしながら仕事をしています。しかし、既に失敗もやってしまい、周りの方々には多大なご迷惑をかけてしまいました。本当に申し訳なく思います。最近は先生方や書店さんに連絡するために電話をかけることもありますが、最初の1ヶ月間はこわくて電話を取ることもできませんでした。取るようになったとはいっても、いまだに対応できない電話も多く、周りの方々にヘルプを求めることが多いので、役に立っているのかどうかはあやしい所ではあります。

発注受入は、先生方からの依頼図書などを書店に発注し、納品していただいた図書を入力して目録担当の方々に渡す仕事です。こちらはほぼルーティンワークなので、日々黙々と入力作業をしています。はっきりいっておもしろい作業ではありませんが、先生方の購入される本を眺めるのは案外おもしろいです。普通の書店の本棚ではまず出会わないだろう、というような本が入ってくるので、入力の合間にパラパラと中を見たりすると、欲しくなる本があったりもします。しかし、常にそのような事だけをしているわけでもありません。端末の使えない時などは、普段とは違う仕事に手を出したりもします。和装本の簡単な糸綴りの仕方を覚えられたのは、図書館ならではだ、と思い、得した気分になりました。

図書館の仕事は、けして派手なものではありません。まして、利用者の方々とはほとんど接触の機会のない業務は特にそのように感じます。しかし、これら、いわば裏方の業務がなければ図書館を維持し、更なる発展を遂げることができないのは事実でしょう。そして、私は奇しくもこの岡山大学附属図書館を構成する一員として勤務させていただいています。まだ1年も過ぎていない現在、実際の所などはほとんど見えていない状態だとは思いますが、半年後、1年後、岡山大学や附属図書館についてもっとよく知り、よりよいサービスを提供するための支援ができるようになりたいと思います。

(くま・ゆみこ 図書情報係)



マスカット

新入生オリエンテーション（中央館）

新入生に向けて、基本的な図書館の利用方法を習得していただくためのオリエンテーションを実施しました。

実施日：4月2日(金)～7月22日(木)

内 容：・図書館の基本的な利用についての案内
・インターネットによる学内の図書・雑誌の検索
・館内ツアー

実施回数：個人参加（13回） 授業・ゼミ単位（37回）

参加人数：個人参加（273人） 授業・ゼミ単位（1,224人）

また、上記とは別にデータベースの利用講習会を4回実施し、40名の参加がありました。

オリエンテーション・ガイダンス（鹿田分館）

学部等から依頼を受け、次の利用案内を実施しました。

< 4月 >

医学部三年次編入生オリエンテーションにて 利用案内

順正高等看護専門学校3年生オリエンテーションにて 利用案内・館内ツアー

医学部医学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

医学部保健学科新入生オリエンテーションにて 利用案内

歯学部早期見学実習にて 利用案内・館内ツアー

医歯学総合研究科講義にて 文献検索・利用案内

< 4月～5月 >

医学部保健学科看護学専攻2年生図書館文献検索ガイダンスにて 文献検索

オリエンテーション・ガイダンス（資源生物科学研究所分館）

大学院自然科学研究科新入生（4/9）、農学部新入生（5/17、6/7）に対し、史料館内の見学や展示史料の説明、図書館の利用方法についてのオリエンテーションを実施しました。

池田家文庫等貴重資料展のお知らせ

中央館では、今年も池田家文庫等貴重資料展を開催します。テーマは、「岡山城下町をあるく」です。会場は新館5階特殊資料展示室、期間は平成16年10月23日(土)～11月1日(月)の10時から16時までで、土・日曜日も開催しています。また10月30日(土)14時から岡山市デジタルミュージアム開設事務所の乗岡実氏による「岡山城下町を掘る～絵図と遺構～」の講演会も予定しています。

池田家文庫には、江戸時代の岡山城や城下町を描いた絵図が、多数残されています。今回は、正保年間（1644 - 48）の岡山城絵図および、慶安年間（1648 - 52）と元禄年間（1688 - 1704）の城下絵図を中心に、城下町の生活がうかがえる絵図や文書が展示されます。

授業協力の終了と今後について

平成 9 年より「総合科目：学術情報の検索と活用 図書館を利用する」の授業に図書館職員も協力してきました。この授業は、情報源の調査、情報収集の手法とレポートのまとめ方、情報ソースへのアクセス法を習得する目的で開講され、図書館職員も授業の補助を行ってきましたが、今年度の授業をもって終了することになりました。

今後は、今までの経験を活かして利用者の方々が電子ジャーナルやデータベースの利用法を習得しうる環境を整備し、多様化した情報ソースへのアクセスを手助けできるように情報リテラシー教育の充実を図っていききたいと計画しております。

他大学図書館の資料利用について

大学図書館では所属大学にない資料について他大学から資料の借用や文献複写を依頼するという相互貸借業務を行っており、本学でも多くの利用者がこのサービスを利用しています。

また、今年度から岡山大学が法人化されたことより、国立大学間の相殺システムから国公立大学間の相殺システムに変わり文献依頼先も対象範囲を拡大しております。

一方近隣の図書館の資料を利用する場合は、岡山県の大学図書館間では相互に協力協定を結んでおり、利用者が他大学図書館の資料を利用できるシステムが構築されています。

特に、直接他大学図書館を訪問して資料を利用する場合は、他館の利用条件の確認を行って利用してください。判らないことがあれば本学図書館のカウンターに相談してください。

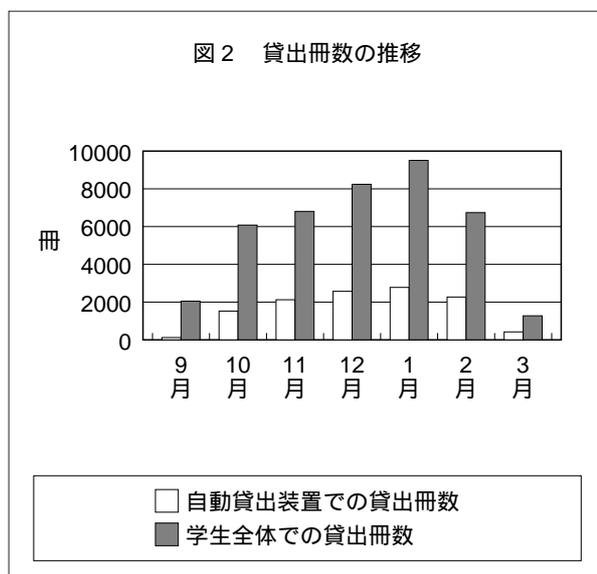
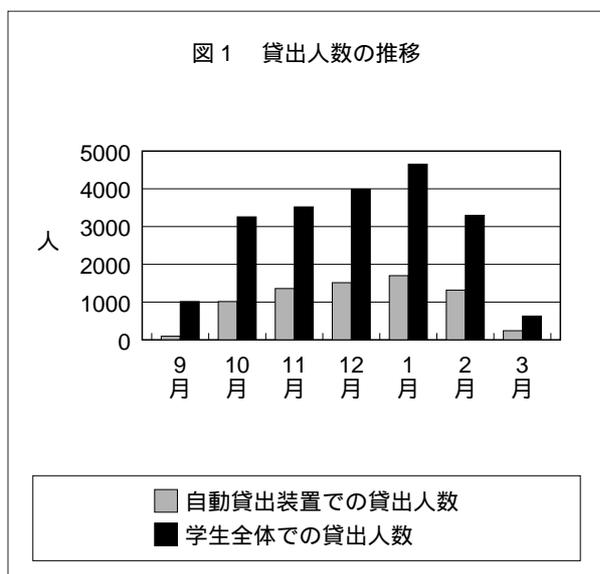
相互協力協定参加館以外の図書館を利用される場合も、必ずカウンターで相談してください。

中央館における自動貸出装置の利用実績報告（2003年 9 月 2004年 3 月）

昨年 9 月より、学生の方を対象に自動貸出装置の運用を始めました。これは、カウンターの混雑緩和を一つの目的としています。

今年 3 月までの学生全体での貸出人数と自動貸出装置での貸出人数の推移を表したものが図 1 です。同様に貸出冊数について推移を表したものが図 2 です。

図 1、2 より昨年 11 月以降は、貸出人数の 35%、貸出冊数の 29% 以上の利用率を維持していて、自動貸出装置が順調に普及していることがわかります。



中央館書庫の閉鎖について

安全面に問題のあることがわかり、8月から書庫を閉鎖しています。書庫の資料は係員が取り出しますので、館内パソコンの近くにある「書庫所在資料請求票」でお申し込みください。資料の用意に時間をいただきますことをご了承ください。現在、書庫資料の利用について何ができるか検討をしているところです。当分の間ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

中央館

内田和子 [文]

日本のため池：防災と環境保全 海青社，2003 (614.6/U)

岡本 章 [経]

Tax and social security reforms in an aging Japan
Faculty of Economics, Okayama University, 2003 (364.1/O)

塩谷 毅 [法]

被害者の承諾と自己答責性 法律文化社，2004 (326.1/S)

田熊文雄 [文]

近代ドイツの国制と市民：地域・コルポラツィオンと集権国家
岡山大学文学部，2003 (234.06/T)

外村直彦 [名]

脱欧入近代 溪水社，2003 (361.5/T)

日本文明の原構造：水平と求心の文化 朝日出版社，1975 (210.12/T)

三谷恵一 [名]

脳と知覚学習：環境心理学の再出発 ブレーン出版，2003 (141.33/M)

森瀧健一郎 [名]

河川水利秩序と水資源開発：「近い水」対「遠い水」 大明堂，2003 (517.6/M)

鹿田分館

岩月啓氏 (分担執筆) [大医歯]

日本皮膚科白書：皮膚疾患の社会的インパクトと皮膚科学・診療の貢献
日本皮膚科学会，2003 (494.8/NI)

太田にわ [医保]

病いの子どもと家族が癒されるケア 西日本法規出版，2002 (N440/OO)

実践事例から考える家族看護：my hearty interest (共同編著)
メヂカルフレンド社，2001 (N860/JI)

黒田重利 (共著) [大医歯]

精神医学 文光堂，2003 (493.7/SE)

(敬称略五十音順)

会議

学外

- 16.4.22 第52回中国四国地区大学図書館協会総会
4.23 第31回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会（於 リジエール松山）
・国立大学法人における事務組織の改革と附属図書館の位置付け、その他
5.24 岡山県大学図書館協議会
平成16年度第1回研修委員会
（於 岡山県立大学サテライトキャンパス）
・平成16年度研修事業について
6.10 中国四国地区国立大学図書館
学術情報・図書館・事務部長会議
（於 広島大学図書館）
・国立大学図書館協会理事会報告、その他
6.21 岡山県大学図書館協議会
平成16年度第1回総会（於 岡山県立大学）
・平成16年度研修事業について
6.30~7.1 第51回国立大学図書館協会総会
（於 大阪大学コンベンションセンター）
・法人化後の附属図書館の役割について、その他
7.2 平成16年度岡山県図書館協会第1回理事会
（於 岡山市立中央図書館）
・平成15年度事業報告、収支決算報告について、その他
7.26 平成16年度岡山県図書館協会総会
（於 岡山市立中央図書館）
・平成15年度事業報告、収支決算報告について、その他

学内

- 16.6.1 平成16年度第1回附属図書館運営委員会
7.20 平成16年度第1回附属図書館運営委員会
資源生物科学研究所分館分科会
7.21 平成16年度第1回附属図書館運営委員会
鹿田分館分科会
7.29 平成16年度第2回附属図書館運営委員会
資源生物科学研究所分館分科会

研修

- ・平成16年度（前期）岡山大学職員研修
（放送大学科目履修コース）
参加者 岡 篤史（4月～9月）
・平成16年度目録システム地域講習会
（図書コース）
参加者 藤原智孝（8.25～8.27）

編集委員会から

4月に岡山大学も国立大学法人となり、図書館も新しい季節のスタートを切りました。早くも半年が過ぎましたが、皆様は、図書館を身近な存在にお感じいただけているでしょうか。職員も皆様によりよい図書館サービスを、と懸命です。ご意見、ご要望等ありましたらぜひ職員にお伝えください。皆様のご協力を得て、「利用したい岡大図書館」を作りたいと思っています。

さて、池田家文庫等貴重資料展が開かれます。図書館利用とあわせ、ぜひ資料展にもお越しください。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.39 平成16年10月1日

発行人 仲野憲一 編集 広報委員会

岡山大学附属図書館発行 〒700 8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話 086 252 1111

ホームページURL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>